

Borland®

Silk Test 16.0

リリースノート

**Borland Software Corporation
700 King Farm Blvd, Suite 400
Rockville, MD 20850**

Copyright © Micro Focus 2015. All rights reserved. Silk Test は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます, Copyright © 2015 Borland Software Corporation (a Micro Focus company).

MICRO FOCUS, Micro Focus ロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2015-03-16

目次

Silk Test 16.0 リリース ノート	4
Silk Test 製品スイート	5
システム要件および前提条件	6
ハードウェア要件	6
ソフトウェア要件	6
インストール手順	7
Silk Test の新機能	8
キーワード駆動テスト	8
将来性を考慮した Google Chrome のサポート	8
Silk Test Workbench 開始画面の改善	9
Oracle Forms のサポート	9
ユーザビリティの改善	9
使用技術の更新	9
Oracle のサポート	9
Mozilla Firefox のサポート	9
Google Chrome のサポート	10
Android のサポート	10
iOS のサポート	10
API の改善	10
既知の問題	11
全般的な問題	11
モバイル Web アプリケーション	13
Web アプリケーション	13
Google Chrome	13
Internet Explorer	14
Mozilla Firefox	15
SAP アプリケーション	16
Silk Test Classic	17
Silk Test Workbench	17
Silk4NET	20
Silk4J	21
解決済みの問題	22
ライセンス情報	24
テストされたソフトウェア	25

Silk Test 16.0 リリースノート

このファイルには、ヘルプに記載されていない重要な情報が含まれている場合があります。このファイル全体をお読みください。

このドキュメントの最新バージョンについては、[リリースノート](#)を参照してください。

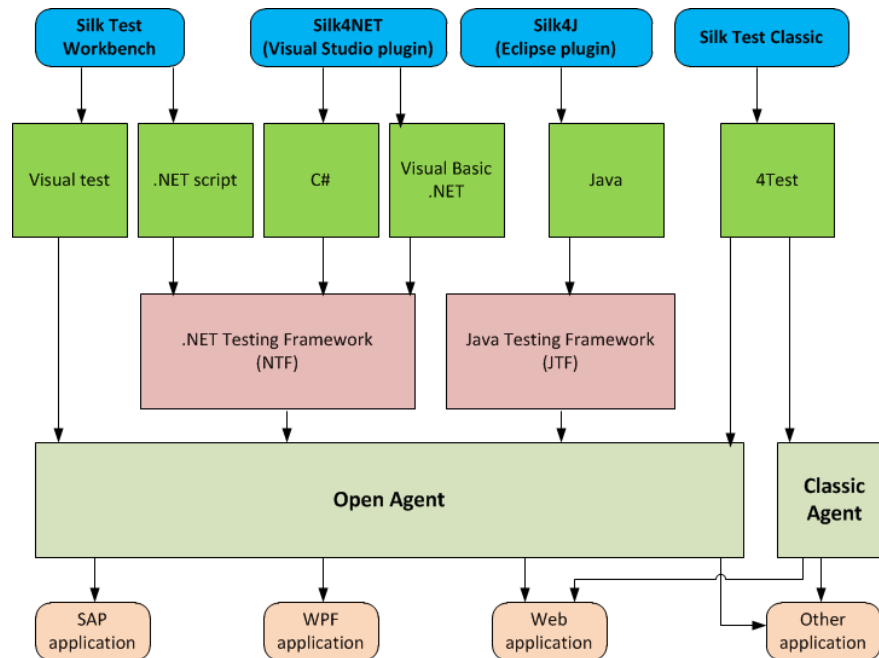
カスタマー ケアからサポートを受けるには、supportline.microfocus.com に移動してください。

Silk Test 製品スイート

Silk Test は、高速で信頼性の高い機能テストと回帰テストを行うための自動テスト ツールです。Silk Test は、高品質のソフトウェアをすばやくリリースするために、開発チーム、品質管理チーム、ビジネス アナリストを支援します。Silk Test を使用すると、アプリケーションが意図したとおりに動作することを確実にするために、複数のプラットフォームとデバイス上でテストを記録/再生することができます。

Silk Test 製品スイートには、以下のコンポーネントが含まれています。

- Silk Test Workbench : Silk Test Workbench は、品質テスト環境です。上級者用の .NET スクリプトと、より幅広い利用者がテストを行えるようにする使いやすいビジュアルテストが提供されます。
- Silk4NET : Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 Visual Basic または C# のテスト スクリプトを作成できます。
- Silk4J : Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。
- Silk Test Classic : Silk Test Classic は、従来の 4Test Silk Test 製品です。
- Silk Test Agent : Silk Test Agent は、テストのコマンドを GUI 固有のコマンドに変換するソフトウェア プロセスです。つまり、テストするアプリケーションをエージェントが動かし、監視しています。ホストマシン上で 1 つのエージェントをローカルに実行できます。ネットワーク環境では、任意の数のエージェントをリモート マシン上で実行できます。



インストールする製品スイートによって、使用できるコンポーネントが決まります。すべてのコンポーネントをインストールするには、完全インストール オプションを選択します。Silk Test Classic を除くすべてのコンポーネントをインストールするには、標準インストール オプションを選択します。

システム要件および前提条件

以下のセクションでは、Silk Test をインストールして実行するためのシステム要件を示します。

ハードウェア要件

Micro Focus では、以下のハードウェア要件をお勧めします。

システム領域	要件
プロセッサ	Intel または AMD の DualCore プロセッサ (2 GHz)
RAM	1 GB の空きメモリ
ハードディスク領域	2 GB の空きディスク領域



注: 自作機 (ベアボーンキット、ショップブランド機を含む) は動作保証外です。推奨するハードウェアは、Silk Test の最低限の要件を提示したものです。テスト対象アプリケーションやテスト環境の要件によっては、追加のハードウェアが必要となる場合があります。

ソフトウェア要件

Silk Test をインストールして実行するには、次のソフトウェアがインストールされている必要があります。

- Microsoft .NET Framework 4 (フルセットアップ)

インストール手順

インストールおよびライセンスの問題については、『[Silk Test インストールガイド](#)』を参照してください。

Silk Test の新機能

Silk Test では、以下の新しい機能がサポートされています。

キーワード駆動テスト

キーワード駆動テスト手法が利用できるようになり、Silk Test でのテスト開発からテスト設計を分離できます。ユーザーは、実装の詳細を気にすることなく、単純にキーワードを定義することでテストを設計できるようになりました。その後、これらの新しいテストとして定義されたキーワードを自動化エンジニアが実装します。既存のキーワードを新しく作成するキーワード駆動テストで他のユーザーが再利用することもできます。

Silk 製品スイートのテスト管理ソリューションである Silk Central もキーワード駆動テスト手法をサポートするようになりました。Silk Central を Silk Test と組み合わせて使用することによって、Silk Central の手動テスト ケースをシームレスに自動化し、Silk Test のキーワードで構成されるメンテナンス可能な自動化フレームワークを自動化エンジニアは開発することができます。

キーワード駆動テスト手法を使用する利点を次に示します。

- キーワード駆動テストを使用すると、テスト自動化とテスト ケースのデザインが分離され、うまく分業できるようになり、キーワードを実装するテスト エンジニアとテスト ケースをデザインする専門家が共同作業できます。
- テスト対象アプリケーションにアクセスすることなく、初期の段階からテストを開発でき、後からキーワードを実装できます。
- プログラムの知識がなくてもテストを開発できます。
- キーワード駆動テストは、長期的に見るとメンテナンス コストを低減できます。キーワードのメンテナンスが必要で、これらのキーワードを使用するすべてのキーワード駆動テストは自動的に更新されます。
- テストケースが簡潔です。
- 技術者でなくてもテスト ケースが読みやすく、理解しやすくなります。
- テスト ケースの変更が簡単です。
- 既存のキーワードを再利用して新しいテストを再利用できます。これにより、より広範囲なテスト カバレッジを実現しやすくなります。
- キーワード実装の内部的な複雑性を、キーワード駆動テストを作成または実行するユーザーに対して隠蔽できます。

キーワード駆動テストは、現在次の Silk Test クライアントでサポートされます。

- Silk Test Workbench
- Silk4J
- Silk4NET



注: Silk4NET は、Visual Studio 2010 ではキーワード駆動テストをサポートしません。

将来性を考慮した Google Chrome のサポート

Google Chrome のサポートが改善され、Silk Test を更新せずに新しいバージョンの Google Chrome で Web アプリケーションをテストできるようになりました。

Silk Test Workbench 開始画面の改善

Silk Test Workbench を開始すると表示される開始画面をエン트리 ポイントとして使用し、Silk Test Workbench で使用できる機能を簡単に見つけることができます。開始画面では、次の機能が提供されるようになりました。

- Silk Test Workbench の現在のバージョンの新しい機能の一覧
- 共通の Silk Test Workbench 機能への直リンク
- 最近使用したビジュアル テストおよび .NET スクリプトへのアクセス
- Silk Test Workbench の操作を開始する方法が説明されているヘルプ トピックへの直リンク
- 追加サポートとトレーニング リソースへのリンク
- Silk Test コミュニティーでの最新のフォーラム記事とブログ投稿へのリンク

開始画面は、そのページを閉じるか、**スタートアップ時に開始画面を表示する** オプションを選択解除するまで開かれたままになります。

Oracle Forms のサポート

Silk Test を使用して Oracle Forms をベースとするアプリケーションをテストできるようになりました。

ユーザビリティの改善

このセクションでは、Silk Test16.0 に対して行われたユーザビリティの改善点の一覧を提供します。

記録の改善

- **記録中** ウィンドウに、記録した操作が表示されるようになりました。
- **記録中** ウィンドウで記録したアクションの順番を変更できるようになりました。
- 誤って記録した操作を記録中に削除できるようになりました。
- 記録を一時停止できるようになりました。
- キーワード駆動テストの記録中に新しいキーワードを追加できます。

ビジュアル テストからの出力パラメータの受け渡し

Silk Test Workbench で、ビジュアル テストの出力パラメータを定義して、ビジュアル テストが他のビジュアル テストから実行されたときに値を戻すことができるようになりました。

使用技術の更新

このセクションでは、Silk Test16.0 に対して行われた重要な使用技術の更新をリストします。

Oracle のサポート

Oracle 12.1 データベースを Silk Test Workbench で使用できるようになりました。Silk Test Workbench は、AL32UTF8 文字エンコードの Oracle 12.1 データベースをサポートします。

Mozilla Firefox のサポート

Silk Test は、以下のリリースで実行されているアプリケーションの再生をサポートするようになりました。

- Mozilla Firefox 30
- Mozilla Firefox 31
- Mozilla Firefox 32
- Mozilla Firefox 33
- Mozilla Firefox 34

Google Chrome のサポート

Silk Test は、以下のリリースで実行されているアプリケーションの再生をサポートするようになりました。

- Google Chrome 36
- Google Chrome 37
- Google Chrome 38
- Google Chrome 39
- Google Chrome 40

Android のサポート

Silk Test では、次のバージョンで実行するモバイル Web アプリケーションをサポートするようになりました。

- Android 5



注: Android エミュレータのプロキシ設定に既知の問題があるため、Silk Test を使用した Web アプリケーションのテストを、Android 4.4 以降の Android バージョンの Android エミュレータ上では行えません。

iOS のサポート

Silk Test では、次のバージョンで実行するモバイル Web アプリケーションをサポートするようになりました。

- iOS 8.0
- iOS 8.1
- iOS 8.1.1
- iOS 8.1.2
- iOS 8.1.3

API の改善

Silk Test16.0 に導入された API の改善点を示します。

新しい Timer クラス

新しい Timer クラスによって、Silk4J、Silk4NET、Silk Test Workbench でテスト実行の経過時間を正確に測定できるようになりました。特に、新しい Timer クラスのメソッドとプロパティは、Silk Performer から呼び出されるテスト実行の計測に使用できるという利点があります。

既知の問題

このセクションでは、Silk Test の既知の問題とその解決策を示します。

全般的な問題

オブジェクト マップを開くのに時間がかかる

.NET 4 を使用している場合、大規模なオブジェクト マップ資産があると読み込みに時間がかかります。.NET 4.5 をインストールすると、この問題を解決できます。

リモート デスクトップまたはリモート デスクトップ接続 (RDC) が最小化されると、Silk Test が機能しない

リモート デスクトップ プロトコル (RDP) 経由でデスクトップに接続している場合、マウスとキーボードを使ってデスクトップに接続することにより、デスクトップの所有権を獲得します。デスクトップの所有権を解放せずにデスクトップを最小化すると、マウス クリックまたはキーストロークの再生がすべて未定義になります。

推奨される構成としては、VMWare サーバーで Silk Test を実行し、VMWare クライアント ソフトウェア経由で接続します。これにより、クライアントが終了された場合でも再生を継続できます。

Check Point ファイアウォールがインストールされている場合に Open Agent が起動しない

システムに Check Point ファイアウォールまたは Check Point ZoneAlarm ファイアウォールをインストールしている場合は、ファイアウォールが Agent と infoservice 間の通信を中断するために Open Agent を起動できません。

Open Agent を起動するには、システムから Check Point ファイアウォールをアンインストールする必要があります。

Mozilla Firefox を使用した Silverlight アプリケーションのテストがマシンによっては機能しない

Mozilla Firefox で使用した場合、マシンによっては Silk Test での Silverlight のサポートが正常に動作しない場合があります。ホスト Mozilla Firefox プロセスがプラグイン プロセスを呼び出すのと同時に Mozilla Firefox プラグイン プロセスがホスト Mozilla Firefox プロセスを呼び出した場合、デッドロックが発生する可能性があります。詳細については、https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=686861 または https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=558986 を参照してください。Silk Test が .Net Framework をプラグイン プロセスに読み込んで Silverlight をテストしているため、この既知の問題が Silk Test で発生する場合があります。この場合、COM オブジェクトを解放するときにガーベジ コレクションがホスト Mozilla Firefox プロセスで呼び出されますが、Silk Test は .Net Framework がガーベジ コレクションを呼び出すタイミングをコントロールできません。

domDoubleClick メソッドの modifiers パラメータが無視される

domDoubleClick メソッドのオーバーロードで修飾キーを指定できません。パラメータが指定されている場合でも、修飾キーはダブルクリックされません。修飾キーを指定できる domDoubleClick メソッドのオーバーロードは、非推奨です。修飾キーを指定するには、doubleClick メソッド (modifiers パラメータを取るオーバーロード メソッドをサポートするクライアントを使用している場合)、または PressKeys および ReleaseKeys メソッドを使用します。

Microsoft Windows 8 の組み込みスペル チェックがテストの再生に干渉する

Microsoft Windows 8 の組み込みスペル チェックは、Internet Explorer 10 などのアプリケーションで有効にできます。

記録中に単語のスペルを間違え、この単語の入力を再生すると、スペルチェッカーはこの単語をマークするか、間違われやすい単語の場合は自動的に修正します。これは、実際のユーザーに対して行われる動作と同じです。スペル チェック機能が含まれていないオペレーティング システムでテストを作成した場合、Microsoft Windows 8 でテストを再生すると、予期せぬ結果が生じることがあります。スペル チェックを無効にするには、次の手順を実行します。

1. **Windows キー + C** を押します。
2. チャーム バーで **設定** をクリックします。
3. **PC 設定の変更** を選択します。
4. **全般** を選択すると、スペル チェック セクションが表示されます (使用中の言語によってスペル チェック機能の有無は異なります)。



注: これはシステム全体の設定で、Internet Explorer 固有の設定ではありません。

5. **スペル ミスの語句を自動修正する (Autocorrect misspelled words)** をオフに設定します。
6. **スペル ミスの語句を強調表示する (Highlight misspelled words)** をオフに設定します。

.NET アプリケーションを DevPartner Studio (DPS) から起動すると、Silk Test で認識されないことがある

この問題を解決するには、以下のステップを実行します。

1. Silk Test のインストール フォルダに移動します (デフォルトでは C:\Program Files\Silk\Silk Test)。
2. Windows Forms アプリケーションの場合は、ng\agent\plugins\com.borland.fastcd.techdomain.windowsforms.agent_<バージョン番号> へ移動します。
3. Windows Presentation Foundation (WPF) の場合は、ng\agent\plugins\com.microsoft.silktest.techdomain.wpf.agent_<バージョン番号> へ移動します。
4. メモ帳で、plugin.xml ファイルを開いて、<loadparameters> セクションに以下の行を追加します。

```
<param name="frameworkAssembly">mcore.dll</param>
```
5. Silk Test のインストール フォルダの ng\agent フォルダに移動します (デフォルトでは C:\Program Files\Silk\Silk Test\ng\agent)。
6. メモ帳で、openagent.ini を開いて、ファイルの 1 番目の行として -clean を追加します。
7. コンピュータからログアウトして、再びログインします。DevPartner Studio によって起動されたアプリケーションに対して、Silk Test が期待どおりの動作をします。

イメージ領域に対するクリックの記録時に矩形領域によってハイライトされる位置がずれる

エリア マップのような複雑なイメージの一部に対するクリックを記録する場合、イメージの適切な領域が緑色の矩形領域によってハイライトされません。ただし、再生時にクリックは正しく実行されます。

Silk Test のインストール中に Windows Defender が有効になっていると Open Agent が起動しない

Silk Test のインストール中にシステムの Windows Defender が有効になっていると、インストールが完了した後に Open Agent を起動できなくなる場合があります。Windows Defender は、ホットフィックス セットアップに必要な操作を妨げる場合があります。回避策として、Silk Test のインストール中は Windows Defender を無効にしてください。

モバイル Web アプリケーション


adb の同時利用による問題

uiautomator テスト フレームワークが実行しているとき、Android Debug Bridge (adb) が使用されているため、**Silk Test Web Tunneler** アプリケーションとの組み合わせで問題が生じる可能性があります。uiautomator と **Silk Test Web Tunneler** が並行して実行されている場合、次のような警告メッセージがログに記録され、無限に繰り返されることがあります。

```
[WARN] SSH Tunnel for device 'Nexus 5' (id=04dcde2134409f32) at port 10001 closed with error code '1' (CommunicationTunnel.java:179) [WARN] SSH Tunnel for device 'Nexus 5' (id=04dcde2134409f32) at port 10001 reported: '[FATAL ERROR: Network error: Connection refused]' (CommunicationTunnel.java:180)
```

この問題は、uiautomator が既に adb を制御していると、**Silk Test Web Tunneler** アプリケーションがポート フォワーディングの設定ができないために発生します。これは adb の問題です。

解決策は、uiautomator を Silk Test と並行して実行しないことです。

 **注:** 同じ問題が逆の状況で発生する可能性があります。つまり、**Silk Test Web Tunneler** アプリケーションが adb を制御していると、uiautomator は adb を使用できないため、デバイスのスクリーンショットを撮ることができません。

モバイルブラウザの HTML フレームを Silk Test がサポートしない

Silk Test は、モバイル Web ブラウザの HTML フレームをサポートしません。Web アプリケーションにフレームが含まれる場合、Silk Test を使用してテストすることはできません。ただし、Silk Test はモバイルブラウザの iframe をサポートします。

Web アプリケーション

100% 以外の拡大レベルを使用して記録すると期待通り機能しない可能性がある

100% 以外の拡大レベルを使用して Web アプリケーションを記録すると、期待通り機能しない可能性があります。Web アプリケーションに対する操作を記録する前に、ブラウザの拡大レベルを 100% に設定してください。

Google Chrome

Google Chrome の WaitForProperty のエラー

新しいページへの移動を起こす操作を実行したあと、WaitForProperty を使用して両方のページ上に存在するオブジェクトの同期を待つときに、ReplayException エラーになることがあります。この不具合を回避するには、操作を実行し、新しいページ上にのみ存在するオブジェクトで Find を実行したあと、それでも必要な場合に WaitForProperty を実行します。

Google Chrome 21、26、27 : Accessibility オブジェクトが無効が見つからない

Google Chrome で Web アプリケーションのロケーターを記録しているときに、ダイアログ ボックス内の一部の Accessibility オブジェクトが認識されなかったり、記録されるオブジェクトの階層が無効であったりすることがあります。この問題は、プロンプトや HTTP 認証ダイアログ ボックスなど、すべての JavaScript ダイアログ ボックスに適用されます。既存のテストでこれらのダイアログ ボックスを使用している場合、Google Chrome でそれらのテストを再生するときに失敗することがあります。

OpenTab が Google Chrome で正しく動作しない

Google Chrome でアプリケーションをテストするときに OpenTab を使用すると、Google Chrome のオートメーション インターフェイスが応答しなくなり、Google Chrome の再起動が必要になる場合があります。

Windows で記録中のロケーターが Google Chrome で失敗する

Google Chrome で Web アプリケーションをテストするときに、アプリケーションを実行している Google Chrome インスタンスのアプリケーション構成中に複数のウィンドウが開いていると、Windows で記録中のロケーターが失敗します。アプリケーション構成中に他の Google Chrome ウィンドウを閉じると、エラーは発生しなくなります。

Google Chrome のバックグラウンド アプリケーションでオートメーション サポートを読み込むことができない

Google Chrome を使用して Web アプリケーションをテストしている場合に、**Google Chrome を閉じた際にバックグラウンド アプリケーションの処理を続行する** チェックボックスがチェックされていると、Silk Test は Google Chrome を再起動してオートメーション サポートを読み込むことができません。

Windows Aero が無効なときにモーダル ダイアログのロケーターを Silk Test が記録できない

Windows Aero が無効化されている場合、モーダル ダイアログが認識されないため、このようなダイアログのロケーターを選択できません。回避策として、モーダル ダイアログが表示されているときには、**Locator Spy** または **オブジェクトの識別** ダイアログ ボックスを使用して、ロケーターを手動で作成および検証してください。


Google Chrome 36 以降で警告によってキーボード フォーカスが失われる

Google Chrome 36 以降では開始後数秒で、Chrome デベロッパー モードが有効であることを示す警告が表示されます。この警告によってキーボード フォーカスが失われる場合があります。基本状態の実行時にコマンド ラインから Silk Test Chrome 拡張機能がロードされるため、Chrome デベロッパー モードが有効化されます。コマンド ラインから拡張機能をロードすると、スパイウェアである可能性をユーザーに確認するために、この警告が表示されます。

回避策として、Google Chrome の開始時にこのダイアログ ボックスを検出し、**キャンセル** をクリックして閉じるようにスクリプトを拡張します。

次のサンプル コードでは、Silk4J の Java のスクリプトで実装する方法を紹介します。

```
if(isChrome())&&(browserWindow.getBrowserMajorVersion()>=32)){
    final PushButton cancelDeveloperModeButton;
    cancelDeveloperModeButton=browserApplication.<PushButton> find(
        "-//PushButton[@caption='cancel']" , new FindOptions(false,20000));
    if(cancelDeveloperModeButton!=null){
        cancelDeveloperModeButton.click();
    }
}
```

 **注意:** ダイアログ ボックスで **無効にする** をクリックしないでください。無効にすると、Silk Test Chrome 拡張機能が無効になります。誤って Silk Test Chrome 拡張機能を無効にしてしまった場合は、基本状態を実行して Google Chrome を再起動し、拡張機能ページを開いて Silk Test Chrome 拡張機能を有効にしてください。

Internet Explorer

Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションの記録に支障をきたす

Internet Explorer 8 で Google ツールバーを使用すると、Web アプリケーションのロケーターの記録に支障をきたします。

Google ツールバーをオフにしてから、Web アプリケーションを記録してください。

Microsoft Silverlight アプリケーション

一部の Microsoft Silverlight アプリケーションで、Silk Test との通信の際に Internet Explorer がハングします。32 ビットプラットフォームでは、問題の防止に役立つ MS KB 2564958 (Active Accessibility の更新プログラム) を参照してください。

Silk Test 13.5 より前のバージョンの Silk Test を使用して記録したロケーターが Internet Explorer で動作しない

Silk Test 13.5 で、Internet Explorer の textContents 属性における空白文字の標準化を改良しました。この変更は、Silk Test のクロスブラウザ機能を改善するための措置で、textContents 属性を利用しているロケーターに影響を与える可能性があります。この属性は、Silk Test 13.5 以前のリリースを使用して記録されたスクリプトで使用されています。

UAC が Microsoft Windows 8 以降および Internet Explorer 11 で有効化されているとき、Open Agent に対して高い昇格を有効化できない

UAC が有効化され、Internet Explorer と Open Agent の両方を高い昇格で実行するとき、Microsoft Windows 8 以降で Internet Explorer 11 上の Web アプリケーションをテストできません。

IME における既知の問題

- Silk Test は、Internet Explorer 11 で IME で日本語入力中に Shift + Space (半角スペース) などが記録されません。
- Silk Test は、Internet Explorer 11 の互換モードでは IME による日本語入力が記録されません。
- 日本語 IME モードで入力時に、現在の IME の変換候補を **スペース** キーで移動すると、Silk Test はその候補を記録してしまいます。この問題を避けるには、**変換** キーを使用して変換してください。

Mozilla Firefox

Mozilla Firefox の最新のバージョンで Adobe Flash Player を使用したアプリケーションの呼び出しが正しく同期されない

Mozilla Firefox 13.0 以降で、最新の Adobe Flash Player のバージョンを使用している場合、呼び出しの際に同期が正しく動作しないことがあります。次の問題が発生する可能性があります。

- Mozilla Firefox は実行中のスクリプトをハングしているものと勘違いして、確認ダイアログ ボックスが表示され、スクリプトが正しく実行されているにも関わらずスクリプトの実行を続けるかどうかを尋ねられる場合があります。
- SetFocus が正しく機能しないために文字の入力が動作しない場合があります。
- UI 上では新しい値で更新されているにも関わらず Adobe オートメーションが古い値に戻す場合があります。

Adobe Flash Player を使用したアプリケーションでこれらの問題のいずれかが発生した場合は、Adobe Flash Player の保護モードを無効化してください。詳細については、<http://forums.adobe.com/thread/1018071> の「Last Resort」に記述されている情報を参照してください (日本語訳: http://helpx.adobe.com/jp/flash-player/kb/cpsid_93769.html の「F. 問題が改善されない場合」)。

テキスト解決のオフセット値が Mozilla Firefox 17 で誤っている場合がある

Mozilla Firefox 17 では、テキスト解決が正しいオフセット値を使用しない場合があります。この場合、Mozilla Firefox のコンテンツは再描画されません。

テキスト解決が Mozilla Firefox 18 以降で機能しない

Mozilla Firefox 18 以降では、テキスト解決が機能しません。

SAP アプリケーション

SAPTree クラスの HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティが書き込み専用になっている

自動化に関するドキュメントに記載されている場合を除いて、SAPTree の HierarchyHeaderWidth および ColumnOrder プロパティは書き込み専用で、読み込むことはできません。

これらのプロパティを使用する場合、スクリプトで、読み込みではなく、書き込みが使用されていることを確認します。

SAPTree クラスの GetColumnIndexFromName() が「特定できないエラー」により失敗する

SapTree クラスの GetColumnIndexFromName() は「特定できないエラー」により失敗することがあります。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

コンテキストメニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗する

コンテキストメニュー項目の SAPTree クラスの Select() メソッドの呼び出しに失敗することがあります。

代わりに親コントロールの SelectContextMenuItem を呼び出します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

水平スクロールバーの Position プロパティが常に 1 を返す

水平スクロールバーの Position プロパティは常に 1 を返します。これは SAP オートメーションの既知の問題です。

SAP Web サイトでこの問題が解決されているかどうか確認してください。

SAPNetPlan クラスがサポートされていない

この問題は今後のリリースで解決される予定です。

SAP スクリプトを高速モードで実行すると、再生エラーが発生する

SAP テストを Silk Test Recorder を使用して記録し、**再生速度: 速い** 設定で再生すると、エラーが発生する場合があります。エラーメッセージは、「この操作を完了するのに必要なデータは、まだ利用できません」です。

再生速度をこれより遅い設定に変更します。または、xBrowser ではなく、SAP オートメーションを使用して問題が発生する操作を再生するように、スクリプトを変更します。たとえば、その操作を DomLink.Select から SapHTMLViewer.SapEvent に変更します。

SAPGUI クライアント 7.30 を使用するとメソッド selectCurrentRow が誤った値を返す

SAPGUI クライアント 7.30 を使用しているときに、メソッド getCurrentRow を呼び出すと、メソッドは行番号ではなく誤った値 -1 を返す場合があります。

メソッド resizeWorkingPane が SAPGUI クライアント 7.30 で正しく機能しない

SAPGUI クライアント 7.30 を使用しているときに、メソッド resizeWorkingPaneEx を呼び出すと、メソッドは workingPane のサイズを変更せずに、getSapWindow().getWidth() の呼び出し結果は、ウィンドウの幅と異なる値を返します。

Silk Test Classic

Silk Test モニターを実行する前に、agent.exe および partner.exe プロセスが強制終了されたことを確認する

Silk Test モニターまたは GUI レベル テストを実行する場合、モニター実行後に Agent.exe または Partner.exe プロセスが正しく終了せず、一時結果フォルダが開いたままになることがあります。モニター実行中にこの問題が発生すると、以降のすべてのモニターがエラー「LoadtestController:3302 - 結果ディレクトリをクリアできませんでした。」で失敗し、クリアされません。

実行サーバー上で Agent.exe または Partner.exe プロセスを手動で強制終了するか、必要に応じて自動的にプロセスを強制終了する必須アクションを作成します。

ウィンドウ クラスをタグを付けずに宣言した場合、不明な動作が発生する

クラスのオブジェクトが Open Agent でのみ使用される場合でも、Silk Test のウィンドウ クラスの宣言には、タグを付ける必要があります。ロケーターはクラスのオブジェクトに追加することができます。ロケーターをクラス定義に追加しても効果はありません。たとえば、以下のコードでは、tag 行は必須となります。

```
[ - ] winclass MyDialogBox : DialogBox  
[ ] tag "[DialogBox]"
```

タグ行が存在する場合、コードは本来の動作をします。ただし、タグ行が存在しない場合、不明なエラーとクラッシュが発生します。

"{chr(10)}" が使用されている場合、デバッグモードで変数が正しく表示されない

行の変更に "{chr(10)}" 文字を使用するスクリプトをデバッグしている場合、アクセス可能な変数が正しく表示されず、**値の設定** を使用して変数の値を設定することができません。

アプリケーションのキャプションに単一引用符が含まれている場合に基本状態の INC ファイルがコンパイルされない

アプリケーションのキャプションに単一引用符が含まれている場合、生成された基本状態の INC ファイルがコンパイルされません。

Silk Test Workbench

大規模サイトでのビジュアル テストの再生

xBrowser の使用中に大規模サイトでビジュアル テストを実行すると、パフォーマンス問題が発生することがあります。この問題を回避するには、**再生 > 結果 > ビジュアル テスト > コントロールのキャプチャ** オプションを **いいえ** に設定します。

スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示される (31314)

メッセージ ボックスのステートメント (MsgBox ("Hello") など) を .NET スクリプトに含めた場合、スクリプトの再生時にバックグラウンドにメッセージ ボックスが表示されます。

メッセージ ボックスをフォアグラウンドに表示するには、MsgBox ステートメントに MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground を含めます。例：

```
MsgBox ("Hello", MsgBoxStyle.MsgBoxSetForeground)
```

インストーラが SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗する

Silk Test のインストール中またはインストール前に、オペレーティング システムが自動更新を実行するか、またはユーザーが Windows アップデートを行った場合、インストーラは SQL Server Native Client のインストールと COM サーバーとしての Silk Test Workbench の登録に失敗します。

これらの問題は共に、Silk Central Test Manager (SCTM) の統合に影響を与えます。それは、SCTM では SQL Server Express によってインストールされたネイティブ クライアント ドライバを使用して Silk Test Workbench DSN を作成するためです。さらに SCTM は、自動化に COM インターフェイスを使用するには、COM サーバーとして登録された Silk Test Workbench を必要とするためです。

以下の解決策のいずれかを選択します。

1. Windows アップデートの実行中に Silk Test をインストールしない。
2. 使用しているマシンに Windows アップデートが自動的にインストールされないようにする。
3. 保留中の Windows アップデートを Silk Test より先にインストールしてから、システムを再起動し Silk Test をインストールする。

複数の修飾キーを含めるようホット キーの組み合わせを変更すると、追加のキーが記録される

検証の挿入用または記録の開始/停止用に複数の修飾キーを含むホットキーを構成している場合は、修飾キーを押す操作が記録されることがあります。たとえば、Alt+Ctrl+F9 というホット キーの組み合わせを指定した場合、Alt は、ホット キーの組み合わせの一部として無視されるのではなく、キーを押す操作として記録されることがあります。これは、キーから手を離すという対応する操作がないため、再生時に問題になります。

修飾キーに関連するこの操作を手動で削除するか、ホット キーの修飾キーを 1 つだけ使用します。

データソース名 (DNS) が 64 ビットシステムで動作しない

SQL Server または Oracle の 64 ビット DSN を Silk Test Workbench に使用することはできません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、**スタート > Silk > Silk Test > 管理 > データソース (ODBC)** をクリックして、32 ビット DSN を作成します。C:%WINDOWS%SysWOW64%odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用することもできます。

Silk Test Workbench を起動するのにネットワーク アダプタが必要になる

Silk Test Workbench を開始するときに、Silk Test Workbench と Open Agent の間で通信できるようにするため、Silk Test Workbench をインストールしたマシンでネットワーク アダプタが使用可能である必要があります。ネットワーク アダプタが使用できない場合、エラー「Open Agent との接続に失敗しました」が発生します。他のクライアント (Silk Test Classic や Silk4J など) を起動する場合には、ネットワーク接続は必要ありません。

Silk Test Workbench を起動する前に、ネットワーク アダプタが使用可能であることを確認してください。

SQL Server Express を Windows Vista SP1 マシンにインストールできない

Windows Vista SP1 マシンでは、SQL Server 2008 Express をインストールしようとする場合、.NET 3.5 SP1 の完全バージョンがインストールされていることを確認してください。.NET 3.5 SP1 の完全バージョンをインストールするには、Microsoft の Web サイトからダウンロードします。

[画面プレビューから識別] により、移行されたデータベースに不正なオブジェクト マップ項目が作成される

Silk Test Workbench 2010 から Silk Test Workbench 2010 R2 に移行したあと、**画面プレビューから識別** を使用すると不正なオブジェクト マップ項目が作成されます。

画面プレビューから識別 を使用する前に、**画面の更新** コマンドを使用して、画面を再キャプチャします。

子スクリプトが親スクリプトから呼び出されると、子スクリプトはスコープ外のオブジェクト マップにアクセスできる

親スクリプトと子スクリプトが異なるプロジェクトに含まれており、異なるオブジェクト マップを使用している場合、オブジェクト マップが子スクリプトのスコープ外であっても、子スクリプトは正常に実行されます。

スクリプトが正常に実行されるため、解決策は必要ありません。ただし、この動作は今後のリリースでは正常に実行されなくなります。

複数ユーザーが SQL 2008 データベース上で同じ資産を同時に編集しようとする、資産のロック機構に関する問題が発生する可能性がある

問題かどうかをテストするには、ビジュアルテストなどの資産を開いて、Silk Test Workbench で編集できるようにします。資産が開いている間に、Silk Test Workbench の別のインスタンスから同じ資産を開きます。問題が発生した場合は、Silk Test Workbench の 2 番目のインスタンスで同じ資産を同時に編集できるか、または 2 番目のインスタンスが不完全なデータに関するメッセージを受け取ります。このときユーザー名とマシン名は共に空白になります。

SQL Server で、データベースの管理者権限を、このデータベースを使用する SQL データベース ユーザーに割り当てます。

SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラーが発生する

SQL データベースで資産のエクスポート中に予期しないエラー「文字列から uniqueidentifier に変換中、変換に失敗しました」が発生します。

エクスポートしたデータベースをインポートし、何らかのエラー メッセージが表示された場合 OK を押します。インポートは正常に終了し、資産を使用できます。

Access データベースの使用中に予期しないエラーが発生する

Silk Test データベース メンテナンス ツールを使用してデータベースをコンパクト化します。 **スタート > プログラム > Silk > Silk Test > 管理 > データベース メンテナンス** をクリックします。次に、データベースを開き、 **ツール > データベースのコンパクト化** をクリックします。

構成中に UAC が有効な状態で Silk Test Workbench が SQL Server へ接続できない

構成中に管理者権限を持たずに Silk Test Workbench を使用している場合、UAC が有効な状態で SQL Server へ接続できません。

構成中に SQL Server へ接続するには、 **管理者として実行** オプションを使用して Silk Test Workbench を起動する必要があります。

リモートの SQL データベースとの接続が失われたときに Silk Test Workbench が異常終了する場合があります

リモートの SQL データベースを使用している場合、データベースが Silk Test Workbench から切断されると (サーバーを再起動した場合など)、Silk Test Workbench がデータベースとの通信を行おうとする際に異常終了する場合があります。

Silk Test Workbench を再起動して、データベースと再接続してください。

[コントロールのキャプチャ] オプションが設定されているとビジュアル テストの再生速度が著しく低下する場合があります

再生のパフォーマンスを向上させるには、[コントロールのキャプチャ] を **いいえ** に設定します。

Microsoft Windows 7 クラシック テーマ: ビジュアル テストの画面プレビューに 記録中 ウィンドウが含まれる場合がある

クラシック テーマを使用した Microsoft Windows 7 マシンで記録したビジュアル テストの画面プレビューに **記録中** ウィンドウが含まれる場合があります。Microsoft Windows 7 で **記録中** ウィンドウを含まずにビジュアル テストを記録するには、クラシック テーマを使用しないでください。

Silk4NET

テストの実行後に TrueLog 結果ファイルが得られない場合、次を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2013 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2013 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- テスト クラスに SilkTestClass 属性が含まれている。
- TrueLog ファイルが作成される場所への書き込みアクセス権がある。

再生中に「単体テスト アダプターが例外をスローしました。」というエラー メッセージが表示された場合は、次を確認してください。

- Visual Studio 2010 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2010 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2012 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2012 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。
- Visual Studio 2013 で作成された Silk4NET プロジェクトが Visual Studio 2013 環境で実行されている (コマンド ラインまたは Team Foundation Server を介して実行された場合も含む)。

前のバージョンの Visual Studio で作成した Silk4NET プロジェクトを新しいバージョンの Visual Studio に移行する方法

- 前のバージョンの Visual Studio でソリューションを開きます。
- Silk4NET プロジェクトの対象のフレームワークを適切な .NET Framework のバージョンに変更します。たとえば、プロジェクトを Visual Studio 2010 から Visual Studio 2012 に移行する場合は、対象のフレームワークを .NET Framework 4.5 に設定します。
- Visual Studio の前のバージョンの UnitTestingExtension への参照を Silk4NET プロジェクトから削除します。たとえば、前のバージョンが Visual Studio 2010 の場合は、SilkTest.Ntf.VisualStudio2010.UnitTestingExtension への参照を Silk4NET プロジェクトから削除します。
- Visual Studio の新しいバージョンへの参照を Silk4NET プロジェクトに追加します。たとえば、プロジェクトを Visual Studio 2012 に移行する場合は、SilkTest.Ntf.VisualStudio2012.UnitTestingExtension への参照を Silk4NET プロジェクトに追加します。

オブジェクト マップを使用していると、先頭がスラッシュになっていない既存のロケーターが機能しなくなる

クラス名のみを含み、スラッシュで開始していないロケーター (PushButton など) は、オブジェクト マップが存在する場合、機能しなくなります。この問題により、Silk Test 14.0 よりも前のバージョンの Silk Test で作成された既存のスクリプトが壊れる可能性があります。前の例では、スクリプトは次のエラーで失敗します：

識別子 'PushButton' がオブジェクト・マップ内で見つかりませんでした。

クラス名以外のものも含む、より複雑なロケータ (PushButton[@caption=OK] など) の場合は、オブジェクト マップが存在する場合でも機能し続けます。

この問題を修正するには、そのようなロケータの先頭に // を追加します。たとえば、次のコード内のロケータ PushButton が機能しなくなったとします：

```
PushButton button = mainWindow.find("PushButton");
```

。その場合、コードを次のように変更してください：

```
PushButton button = mainWindow.find("//PushButton");
```

。

Silk4J

Silk4J メニューが Eclipse 4.1 で正しく開かない

Eclipse 4.1 で Silk4J メニュー ボタンをクリックしても、メニュー項目が表示されません。これは、Eclipse 4.2 で修正されている Eclipse の問題です。詳細については、https://bugs.eclipse.org/bugs/show_bug.cgi?id=367159 を参照してください。

オブジェクト マップを使用していると、先頭がスラッシュになっていない既存のロケータが機能しなくなる

クラス名のみを含み、スラッシュで開始していないロケータ (PushButton など) は、オブジェクト マップが存在する場合、機能しなくなります。この問題により、Silk Test 14.0 よりも前のバージョンの Silk Test で作成された既存のスクリプトが壊れる可能性があります。前の例では、スクリプトは次のエラーで失敗します：

識別子 'PushButton' がオブジェクト・マップ内で見つかりませんでした。

クラス名以外のものも含む、より複雑なロケータ (PushButton[@caption=OK] など) の場合は、オブジェクト マップが存在する場合でも機能し続けます。

この問題を修正するには、そのようなロケータの先頭に // を追加します。たとえば、次のコード内のロケータ PushButton が機能しなくなったとします：

```
PushButton button = mainWindow.find("PushButton");
```

。その場合、コードを次のように変更してください：

```
PushButton button = mainWindow.find("//PushButton");
```

。

解決済みの問題

以下の問題が解決されています。



問題番号	説明
RPI 603319	Rumba : SynchSendKeys が RDE_SendKeys_Hsynch のすべてのパラメータを公開しません。
RPI 607455	Silk Test 15.5 Hotfix 3 に更新すると既存の Silk4J 環境を壊します。
RPI 606218	Silk Test Classic : pwrbldex.inc のリグレッションが Silk Test 15.5 にアップグレードすると発生します。
RPI 607455	Silk Test 15.5 Hotfix 3 に更新すると既存の Silk4J 環境を壊します。
RPI 1093359	Silk Test Classic : Open Agent が埋め込んだ Win32 の解決を行いません。
RPI 1094206	Silk Test 15.0 以降で .NET アプリケーションのいくつかのオブジェクトを解決できません。
RPI 1094533	Silk Test の SAP eCATT 統合が、チェックアウトするためにさらにライセンスを必要とします。
RPI 1094658	Silk Test が Windows Forms にホストされた WPF コントロールを検出できません。
RPI 1094755	Silk Test Workbench が SAP eCATT から開始できず、Silk Test Workbench は BLOB を SAP に保存できません。
RPI 1094876	Silk Test Workbench から eCATT にスクリプトをプッシュするとき、Silk Test Workbench が SAP eCATT のパスワードを保持しません。
RPI 1094938	Silk Test Classic : Open Agent が Internet Explorer 8 の JavaScript を記録できません。
RPI 1094960	オーナー描画メニューのテキストキャプチャが GetDC 呼び出しを実行し、対応する ReleaseDC 呼び出しが行われなかったため、GDI ハンドルがリークします。
RPI 1094966	Silk Test Workbench : 複数のオブジェクト マップ エントリがワイルドカードが使用されたオブジェクトに対して作成されます。
RPI 1094977	コマンド ラインから Open Agent を強制終了すると Silk Test Workbench がハングします。
RPI 1094986	Silk Test 15.5 : あるカスタム Windows Forms コントロールに対して、Silk Test が無効なロケーターを生成します。
RPI 1095408	Silk Test Workbench : パラメータを持つ ComboBox.Select を含むビジュアル テスト ステップが Silk Test 15.5 にアップグレードすると機能しなくなります。
RPI 1095410	Silk Test Classic : Microsoft Lync を実行していると、TypeKeys 関数が遅くなります。
RPI 1095411	Silk Test 15.5 : Silk Test Workbench の Replace 関数が 1 つの引数のみを受け付けます。
RPI 1095440	.NET スクリプトで空のテキストで ComboBox.Select を実行すると、空のテキストを持つ実際の項目ではなく、ComboBox の最初の項目を誤って選択します。
RPI 1095487	Silk Test Workbench : Silk Test 15.5 にアップグレードすると Select パラメータが [空] になります。

問題番号	説明
RPI 1095493	Silk Test Workbench : Silk Central で定義した再生オプションが使用されません。
RPI 1095500	Silk Test 15.5 が Microsoft Windows 7 の Internet Explorer 9 でモーダル ダイアログのコントロールを認識できません。
RPI 1095504	8 文字以下の式をビジュアル テストに追加すると Silk Test Workbench 15.5 がクラッシュします。
RPI 1095538	Silk Test Workbench 15.5 : Left/Right オペランドを持つ式をビジュアル テストに追加すると失敗します。
RPI 1095613	新しい SapTab コントロールをクリックすると Silk Test が要素を識別できなくなります。
RPI 1095702	Rumba:AS400 ディスプレイに完全に入力したテキスト フィールドを Silk Test が正しく記録しません。
RPI 1095703	Rumba : AS400 ディスプレイ上の移動にタブを使用すると、記録したスクリプトに誤りがあります。
RPI 1095704	Rumba : AS400 ディスプレイに 1 文字だけ入力したテキスト フィールドを Silk Test が認識しません。
RPI 1095794	Silk Test Classic が WEb ページの完全な階層をクリップボードまたは Silk Test Classic にコピーできません。
RPI 1095877	Silk Test Workbench : STW.exe をリモートで実行すると「サーバーはビジーです」というエラーが発生します。
RPI 1095904	Microsoft アップデート MS14-051 を適用すると //BrowserApplication オブジェクトが Internet Explorer で見つかりません。
RPI 1095921	Silk Test Classic : 表示言語をドイツ語に設定すると Console.GetContents() が内容を返しません。
RPI 1095965	Silk Test Classic : プロジェクトのエクスポート時に Partner.exe がクラッシュします。
RPI 1095987	Open Agent を Silk4NET テストから開始するとエラーが発生します。
RPI 1096000	クリップボードにコピーするとロケーター ダイアログがフリーズします。
RPI 1096129	Silk4NET : C# を使用したオブジェクトから動的呼び出しを使用して Item プロパティを取得できません。
RPI 1096137	Silk Test Workbench : 組み込んだスクリプトの実行後にビジュアル テストで再生が失敗します。
RPI 1096165	Rumba 画面検証の実行時に除外オブジェクトが無視されません。
RPI 1096169	Silk Test Classic : SYS_GetRegistryValue メソッドの bConvert パラメータが機能しません。
RPI 1096174	Silk Test Workbench がエクスポート資産に含まれる資産をエクスポートしません。
RPI 1096199	Silk Test Workbench : if ... else ステートメントの条件処理に誤りがあります。
RPI 1096307	Silk Test Workbench : スクリプトからビジュアル テストを実行すると Silk Test Workbench が応答を停止する場合があります。

ライセンス情報

評価版を使用しているのではない限り、Silk Test はライセンスを必要とします。

ライセンス モデルは、使用しているクライアントとテストすることができるアプリケーションに基づきます。利用可能なライセンス モードに応じて、次のアプリケーションの種類がサポートされます。

ライセンス モード	アプリケーションの種類
完全	<ul style="list-style-type: none">• Web アプリケーション (以下を含む)<ul style="list-style-type: none">• Apache Flex• Java アプレット• モバイル Web アプリケーション<ul style="list-style-type: none">• Android• iOS• Apache Flex• Java AWT/Swing (Oracle Forms を含む)• Java SWT と Eclipse RCP• .NET (Windows Forms および Windows Presentation Foundation (WPF) を含む)• Rumba• Windows API ベース <p> 注: ライセンスを完全ライセンスにアップグレードする場合は、www.borland.com に移動します。</p>
プレミアム	<p>完全ライセンスでサポートされるすべてのアプリケーションの種類 + SAP アプリケーション</p> <p> 注: ライセンスをプレミアムライセンスにアップグレードする場合は、www.borland.com に移動します。</p>

 **注:** Silk Test ライセンスは、Silk Test の特定のバージョンに固定されています。

テストされたソフトウェア

このセクションでは、Silk Test16.0 がテストされたソフトウェアを一覧します。



オペレーティング システム


Silk Test16.0 は、次のオペレーティング システムでテストされました。

- Microsoft Windows XP SP3
- Microsoft Windows Vista SP2
- Microsoft Windows Server 2008
- Microsoft Windows Server 2008 R2
- Microsoft Windows 7
- Microsoft Windows 7 SP1
- Microsoft Windows 8
- Microsoft Windows 8.1
- Microsoft Windows Server 2012
- Microsoft Windows Server 2012 R2

Web アプリケーション

Open Agent の場合、Silk Test16.0 は次のブラウザおよび Web テクノロジに対してテストされました。

テクノロジーの種類	テストしたバージョン
Mozilla Firefox (再生のみ)	22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34
Google Chrome (再生のみ)	28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40
Chrome for Android	
Stock Android Browser	
Apple Safari	
Internet Explorer	8、9、10、11
Android	4.1、4.2、4.3、4.4、5  注: Android エミュレータのプロキシ設定に既知の問題があるため、Silk Test を使用した Web アプリケーションのテストを、Android 4.4 以降の Android バージョンの Android エミュレータ上では行えません。
iOS	7.0、7.1、8.0、8.1、8.1.1、8.1.2、8.1.3
Silverlight	3 (Silverlight Runtime 4)、4 (Silverlight Runtime 4 および Silverlight Runtime 5)  注: Microsoft は、Silverlight 5.0 を 2021 年までサポートすることをコミットしましたが、Silverlight の今後のロードマップに関する具体的な情報は何もなされませんでした。我々はおお客様に対する最高のサポートを維持するよう努力しますが、このプラットフォームに対する Microsoft から得られるサポートに限界がある可能性があります。

テクノロジーの種類	テストしたバージョン
Apache Flex	<p>Silk Test16.0 は、すべてのサポート対象ブラウザを使用した Apache Flex バージョン 3.5 以降、および Adobe AIR 2.0 以降 (Apache Flex 4.x でビルド) を使用してテストされました。</p> <p> 注: Silk Test は、Apache Flex を含めて、Google Chrome で実行する Web アプリケーションの子ドメイン テクノロジーのテストをサポートしていません。</p> <p>Silk Test は Adobe Flash Player 10 以降をサポートしています。</p>
Java アプレット	Silk Test は、Internet Explorer および Mozilla Firefox のアプレットをサポートしています。
HTML5	
Oracle Forms	10g および 11g (Internet Explorer 用)

デスクトップ アプリケーション

Open Agent の場合、Silk Test16.0 は次のテクノロジーの 1 つで開発されたデスクトップ アプリケーションに対してテストされました。

テクノロジーの種類	テストしたバージョン
Java AWT/Swing (Java Foundation Classes を含む)	Java 1.6、Java 1.7、Java 1.8
Java SWT	<p>Silk Test16.0 は Java SWT バージョン 3.2 以降に対してテストされました。</p> <p>スタンドアロンと Rich Client Platform (RCP) アプリケーション (ブラウザでアプレットとして実行される SWT スタンドアロン アプリケーションはサポートされていません)</p>
SAP	SAPGUI クライアント 7.10、SAPGUI クライアント 7.20、SAPGUI クライアント 7.30
Rumba	8.1、8.2、8.3、9.0、9.1、9.2、9.3
Win 32	任意
WinForms	.NET 3.0、3.5、3.5 SP1、4.0、4.5
WPF	.NET 3.5 SP1、4.0、4.5

Silk Test Workbench

Silk Test16.0 は Silk Test Workbench 資産の格納用に次のデータベースに対してテストされました。

- Microsoft SQL Server 2008 (SP2) + Express
- Microsoft SQL Server 2012
- Microsoft SQL Server 2012 SP1
- Microsoft SQL Server 2014
- Oracle 11.1
- Oracle 11.2
- Oracle 12.1。Silk Test Workbench は、AL32UTF8 文字エンコードの Oracle 12.1 データベースをサポートします。
- Microsoft Access 2000 (シングルユーザー データベースとして)

 **注:** Micro Focus は、Microsoft SQL Server を使用することを推奨します。


Silk4J

Eclipse 3.7.2 以降では、32 ビットおよび 64 ビットの両方で Silk4J を統合できます。バージョン 4.4.1 は Silk Test に付属しています。

Silk4NET

Silk4NET は Visual Studio の次のバージョンと統合できます。

- Visual Studio 2010 Professional
- Visual Studio 2012 Professional
- Visual Studio 2013 Professional


 **注:** Silk4NET は、Visual Studio 2010 ではキーワード駆動テストをサポートしません。

Silk Test Classic

Silk Test Classic のデータ ドリブン ワークフローは、以下に対してテストされました。

- テキスト ファイルおよびカンマ区切り値ファイル (*.txt ファイルおよび *.csv ファイル)
- MS Excel
- MS Access
- MS SQL Server
- Oracle (部分的なサポート)
- SyBase SQL Anywhere

Silk Test Classic は、ODBC を使用して上記のデータベースにアクセスするため、有効な ODBC ドライバを持つこれらのデータベースのバージョンに対してテストされました。

 **注:** Silk Test Classic の **Select Data Source** ダイアログ ボックスで、Silk DDA Excel または Segue DDA Excel のいずれかのデータ ソースを選択できます。新しいデータ ドリブン テストケースの場合は、Silk DDA Excel データ ソースを選択します。Segue DDA Excel データ ソースは後方互換性のために選択します。これにより、Segue DDA Excel を参照する既存の .g.t ファイルが引き続き機能します。